

アッラーと私と スカーフと



10月22日（日）イーグレひめじ あいめっせホールにて、国際理解映画上映会「アッラーと私とスカーフと」を開催しました。この映画は、カナダのトロントに住む4人のイスラム教の女性が、スカーフ（ヒジャブ）を着けるか外すかをめぐって葛藤する姿を描いたドキュメンタリーです。

昼の部と夜の部の2回上映で、昼の部では上映の前にイスラム文化の基礎を学ぶミニ講座を実施しました。また、会場にはイスラム教に関する様々なアイテムを展示しました。

©ConnectedEarth 2015-2020 all rights

ミニ講座では、イスラム教の基本的な考え方や、クルアーン（コーラン）にはヒジャブについてどのように書かれているかなどが紹介され、映画をより深く理解することができました。

映画では、イスラム圏ではない国で、ヒジャブとどのように向き合うのか、それぞれの心が揺れ動く様子が映し出されています。参加者からは、「ただの布に、深い意味が込められていることに驚いた」「ヒジャブをするしないを、自分で決めることが大切だと思う」などの感想が寄せられました。

ヒジャブを巡って女性が死亡したのをきっかけに、イランでデモが激化していることが日本でも報道され、関心が高まっています。

コロナによる制限が緩和され、訪日外国人が増加する中、ヒジャブを着けている人を見かけたり、関わったりする機会が増えていくと考えられています。相手を尊重し、交流を深めていくために、この上映会が役に立てばと思います。

